



# 月刊 千葉動力車

## 戦争と憲法改悪の道ひらく

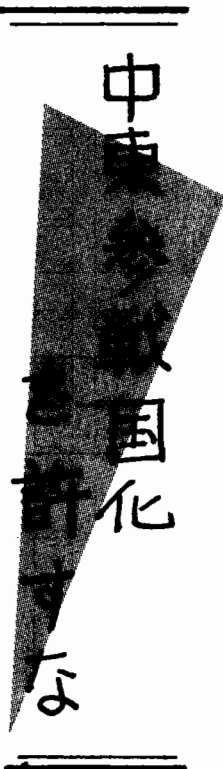
# 自衛隊の海外派兵反対

清算事業団闘争勝利、不当処分、スト損賠攻撃粉碎、全国労働者総決起集会に全力で結集しよう

●九月二十四日(月)十三時より  
●東京駅八重洲口・国労会館大ホール

政府自民党は、イラクのクウェート侵攻を契機に日本国中を排外主義の波でおおい、一気に自衛隊の海外派兵の道をきりひらこうと反動攻勢を激化させています。かつて朝鮮・中国などアジアに侵略したとき「居留民を守れ」を口実に軍隊が侵

略したように、今度は「人質」問題をテコに自衛隊の中東派兵を強行せんとしています。わたしたちはいまこそ、自衛隊の海外派兵反対、日本の中東参戦国化反対をかかげ、全力でたたかわなければなりません。



イラクのクウェート侵攻にはじまる中東危機の爆発と、アメリカ帝国主義の中東侵略戦争への突進のなかで、政府自民党は、自衛隊の本格的な海外派兵への道をこじ開けようとしています。八月二十九日には、「中東貢献策」と称して中東侵略戦争への参戦国として名乗りをあげました。憲法すら公然と踏みこじって

一気に戦争への道をひらくというのです。しかも、野党までもがおしなべて、自衛隊の海外派兵にむけた「法整備」のための臨時国会の早期開催に賛成し、戦争翼賛勢力に転落しています。民社党は、「中東貢献策」を「なまぬるい」と非難し自衛隊を海外派兵を叫びたて、公明党は、党として正式に自衛隊海外派

兵への道を検討し始めています。社会党は、「国連軍」のお墨付きさえあればアメリカの侵略戦争に協力することを明らかにしたのみならず、八月三十日の中央執行委員会では、「国連の枠外での人的・経済的支援」をもうちだしました。共産党は、表向きには反対の態度をとりながらも、アメリカの侵略出兵には一言の批判も行わず、イラクへの「断固たる制裁」を叫んでいます。また、連合は、自民党の「貢献策」を支持したうえで、「民間労働者の(中東)派遣にあたっては労組・労働者と協議せよ」(派遣するならば自衛隊にしろ、というのが本音だ)と、産業報国会の道へ今一歩足を踏み込みました。さらに連合は、「人質」のなかに連合組合員が数多く含まれていることから、駐日イラク

大使館に「抗議」まで行っているのだ。まさに、国益主義、排外主義が日本中に蔓延しようとしているのです。一旦自衛隊海外派兵へのとめ金はずされれば、一気に憲法改悪と戦争への急坂をころげおちることは火を見るよりも明らかです。

戦争反対の闘いを全国にまきおこそう

十一月「即位の礼」「大嘗祭」をはじめとする一連の天皇制攻撃も、中東危機のなかで、より一層国家主義、民族主義、排外主義、愛国主義をおおるものとして激化されます。いまこそ侵略戦争反対、自衛隊の海外派兵反対の声をたかく掲げて、労働者が闘いの先頭にたとう。

9月27日(木)

物販担当者、

全国オルグ団

会議

・十八時から

・動力車会館